

第1回 産業遺産情報センターに関する検討会
議事要旨（案）

- 日 時：平成29年10月3日（火）10時30分～12時00分（終了）
- 場 所：永田町合同庁舎 7階特別会議室
- 出席者：工藤座長、伊東委員、小野寺委員、後藤委員、松岡委員

1 開 会

冒頭、河村室長（産業遺産の世界遺産登録推進室）より挨拶及び検討会の趣旨について説明があった。

2 議 事

（1）検討会の進め方について

資料1に基づき事務局から説明があり、（案）のとおり了承された。

【主な意見等】

- 大事なものは、歴史全体について理解できるインタープリテーション戦略の一環として情報センターを作るということ。徴用工ばかりにスポットが当たっているが、ユネスコが求めているのは資産全体。シリアルノミネーションなので、資産全体の意義が理解できるインタープリテーションとすることが必要。

（2）産業遺産情報センターの候補地について

資料2、資料3、参考3及び参考5に基づき事務局から説明があり、意見交換等が行われた。

【主な意見等】

- 「明治日本の産業革命遺産」のシリアルノミネーションとしての意義を発信するために、全体としての展示があるべきだが、各サイトにもそれぞれ研究や資料収集をしている施設があるので、情報センターはそれらの取組みを集約して発信する役割が必要ではないか。Webでの展開案もある。
- 国が内容を作るというよりは、各サイトの情報を発信できる機能を持たせることで東京都内に整備する意義がある。常設展示というよりは、常に研究成果が発信される機能が望ましいのではないか。
- ギャラリートークや研究成果の発信を考えたとき、東京都内では研究者が夕方以降に集まることもあるため、食堂も有効活用できるとよい。収入が先細りの中での公共施設の運営を考えると、施設の改修を行って（その床を貸して）収益を得るといった考え方もできないか。
- 情報センターはどれくらい情報を集められるかが決め手となる。全国23ヶ所に

- 東京から見えない情報もたくさんある。地元に行かなければわからない情報を集約し、様々な企画を行っていくにはいかに情報を集めるか。
- 今はWebの時代であり、国立公文書館のアジア歴史資料センターなど、世界から評価を受けるデジタルアーカイブ機能を有する施設もある。そういった施設と連携を取ることも考えることで様々な情報発信ができる。高度な情報を提供できるようにすることで世界からも評価されるのではないか。
 - 情報センターは「明治日本の産業革命遺産」を核として、産業遺産全体を広めていく施設を考えるべき。展示だけだとリピーターの確保が難しいので、様々な情報を発信する施設としての構想が望ましい。場所としては、建物として独立していた方が、行った時の印象もよいのではないか。現地視察についても計画も立ててほしい。
 - 博物館の場合、バックヤードの面積は展示スペース以上に必要となる。リポートして様々な内容について学んでもらいたいということを考えると、ある程度の面積のバックヤードの確保が必要。勉強するための資料室、図書室なども必要であり、広いスペースがある施設が望ましい。
 - 全国からの様々な資料や情報を集約し、次世代へ引き継いでいくということも考えると、ある程度の面積が独立して確保できることが必要ではないか。
 - 従事する人数の規模はどれくらいを想定しているか。例えば調査研究機能を持たせる場合、情報センターに職員として研究者を雇うといった検討はしているのか。
 - 運営費は重要。収蔵スペースを東京都内に置くことは非効率であり、収蔵は地方にして東京にはデジタルな情報が来る仕組みが好ましいのではないか。学芸員や収蔵のための費用を地方に置き、人材育成も地方でやっていける仕組みを作ることも必要だろう。地方に研究機能・収蔵機能を置き、その結果を東京に集約するイメージをするとコストの考え方が変わってくるのではないか。
 - バックヤードと言っても、既存の博物館としてのバックヤードではなく、デジタル時代にふさわしいものを想定すべき。地方では発信が難しい情報もあるので、そうした情報を扱う機能も必要になるのではないか。
 - 将来的に博物館相当施設にするイメージがあるのか。
 - 学芸員養成のためのシステムがあった方がよいのではないか。
 - 戦前にも、戦後にも産業の歴史を語るような博物館の構想があったが実現していない。今までできなかった日本の産業史を紹介できるものになれば、人材育成の面においても非常に大きな役割を果たすのではないか。長期的にそういった構想を持って取り組んでもらいたい。
 - 現状、科学系の博物館は国立科学博物館。先進国では自然と科学を両方扱っているのは稀で、それぞれ独立した博物館となっている。産業については科学の

- 枠での扱いとなっている。日本でもそうなってほしい。
- 将来的な展望が描ける情報センターを考えていきたい。
 - まずは場所を決めていく必要があるので、一度現地視察を行い、検討を進めることとしたい。

(3) その他

資料3及び参考5については、候補地の具体的な内容が記述されているため、現段階では非公表とすることが了承された。

3 閉 会

閉会前に、現地視察及び次回検討会の日程調整がなされた。